

厚田 津島家の
恵比寿様

七福神というと皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。

文字通り「福」をもたらす神様で、七福神の中で唯一日本の神様である「恵比寿」は右手に釣りざおを持ち、左手で鯛を抱えた姿で、大漁・航海安全や商売繁盛の神様として広く信仰されています。

今回紹介するのは、本年度寄贈いただいた、自在法師遼天作の「恵比寿神坐像」(写真1)です。遼天は現宮城県気仙沼の曹洞宗補陀寺の僧で、木食修行のため全国を回る中で北海道にも2度訪れ、彫像を残したとされます。また、遼天作の観音像は松前町では町指定文化財にも指定されています。

恵比寿神坐像の寄贈者は厚田区の津島氏で、津島氏の元にきた経緯としては次のように伝わっています。「……この恵比寿像は松前藩の海産物商松村幸右衛門氏が所蔵していたが、明治30年ごろに小樽の中村岩次郎氏に渡る。中村氏の妻ノブが厚田区の津島慶太郎氏の姉であったため、昭和29年に中村氏より譲

り受けた……」(「古潭自治連合会誌 ふるさと古潭」1992(平成4)年4月5日発行掲載「古里とひとNo.9」より)

この恵比寿像は1958(昭和33)年開催の北海道大博覧会にも出展されており、各地から研究者らが調査に訪れ、石狩市でも2018(平成30)年に文化財調査を行いました。

像は総高52cmの木像で、黒漆が全面に塗布されています。左手には鯛を抱えており、右手の釣りざおは取り外しもできます(表紙写真、釣りざおがない姿)。背面には「禪沙門／自在法師／遼天作」(写真2)と刻まれ、この像が自在法師遼天の作であることが分かります。

大変貴重な恵比寿像は10日(水)3月31日(日)まで開催の「資料館のお宝2024」にて公開します。

(坂本恵衣)

※坐像：座っている姿の像

※木食：木の実や草のみを食べて

修行すること



写真1 全体像



写真2 背面の彫り部分



石狩市学芸員
坂本恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

圃文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館